With コロナ巣ごもり読書22

道真VS時平15

栄花物語巻四で、「かの時平大臣の御子の敦忠中納言の御孫なりければにや、位なども浅う人々しからぬ有様にてあるにやとぞ世の人も言ひ思ひける。」と人並み以下に評されたのは、時平の玄孫で出雲前司・相如（950頃～995）である。相如が家司を務めた藤原道兼（961～995）は兼家（929～990）三男で忠平の玄孫になる。相如は10歳年下ながら右大臣である道兼を処世の頼みとし、道兼もまた同じ藤原北家同士の相如を格別目にかけていたという。

65代花山の出家退位騒動後、兼家は娘詮子と64代円融との子、66代一条を6歳で即位させ、念願の摂政に就いた。が4年後に死去。関白を継いだ長子の道隆（953～995）も5年後に飲水病で死去。その後継と目された道兼だったが、体調不良で陰陽師から方違え（転居療養）を勧められ、相如が自分の館を道兼に提供し看病していた。

そんな中で道兼に関白宣旨が下される。相如は誰より喜んだに違いない。ところが、その七日後に道兼死去。世に七日関白と言うが、夢も希望も潰えたか、相如は自分も床につき、そのまま道兼死後21日目に亡くなってしまった。何ともの哀しい人生だった。世人はまた道真の祟り云々と噂したことだろう。

とはいえ、道兼は享年34歳、相如は享年44歳位である。祟られたのはむしろ道兼と見えなくもない。時平子孫が短命というが、忠平子孫も十分短命だった。短命で家督が断絶することは、藤原はもちろんだが、天皇家にこそ最大の政治的課題である。

崇りによる子孫途絶を一番懼れたのは実は、自身も43歳で崩御した醍醐だったかもしれない。

醍醐は藤原腹ではないが、藤原北家と幾重にも婚戚関係を結ぶ親藤原だった。時平忠平兄弟の妹・穏子と醍醐との子保明は生後3ヶ月で皇太子となるが21歳で死去。すると醍醐は保明と時平女・仁善子との子で二歳半の孫・慶頼王を皇太子にする。

世継ぎ確保に憑かれているかの如くである。しかし、その慶頼王も2年後に死去。醍醐はよほど焦ったに違いない。

もともと皇太子は内裏外の東宮を居所としたが、道真怨霊が噂されたことから醍醐は次の皇太子寛明を内裏から出さなかった。ために母・穏子も同じ内裏内後宮で共に住むことになる。

この以降、后所生の皇子女・皇太子の内裏居住が通例化し、結果として次天皇を擁し共に住む母后の権威が高まっていく。

註）東海林亜矢子『後宮から見た摂関政治』前回訂正　巣ごもり読書21

醍醐天皇在位　897～923→897～930

みしま古典を読む会　高月フミコ

新人議員アンケート

この度、新人議員にアンケートをお願いした。質問内容は、

①行政に対する議会のチェック機能について、②議会活動で一番関心のあることは、③市庁舎の立替について、④ゴミ焼却場の立替問題、⑤行政手法についての審議会の在り方について、⑥再開発の事業費高騰について、⑦三島市のインフラ整備に多額の費用が予想されることについて

回答させていただきたい。

【本間雄次郎議員】

①投票率の低下が行政のチェック機能を薄れさせていると感じる。投票率が低いということは多くの有権者の期待に応えずとも、首長、議員として活動できるということになる。そうなると自ずとチェック機能など果たさずとも、選挙に勝ち続けられるので、投票率の低下が最大の要因のように思う。

②関心事にあたるかわからないが、特に地方議会においては党派を超えた是々非々の姿勢で望むことに注力したい。会派構成など大きな括りで捉えるのでなく、議員ひとりひとりの意見にフォーカスしたい。

③現実案として、南二日町グランドに移転が濃厚のようだが、現在地への建替、先述のような新築移転の二点に絞るのではなく、既存建物への移転など、他の可能性も潰してはならないように思う。

④ゴミ処理に関しても市民生活に直結するインフラ整備事業なので大きな費用負担は致し方ない。ゴミ焼却場建替について、未だ知識不足につき、今後、調査実施の上、

⑤有識者会議は大変重要に思うが、大事な点は毎度毎度誰が、どういった経緯で有識者を選定したか、である。また有識者会議に丸投げではなく、市の意見も取り入れる余地がしっかりあるのか、が基本である。

⑥駅前再開発事業で問題とすべきは200億以上という竣工までの総事業費も勿論のことだが、竣工後の管理体制、責任の所在が全く議論されていない点に尽きる。税金が大量投入される事業にも関わらず、建物を建築までのことしか議論されていない。その後の建物維持費や運営主体の収支予想を確認できずして、事業を進めてはならない。

⑦他市町との広域行政連携は必要となる。特に県東部は中西部と比較し、政令市もなく、各自治体が未だ混在している。施設によっては県主導のもとでしか、進められない水道事業など挙げられるが、できる限り、広域化かつ集約化し、コスト削減すべきである。

【永田　裕二議員】

①議員の高齢化・劣化・努力不足かもしれません

②市議会議員一年生で感じたことですが、国↓県↓市の順位に囚われすぎているかも。まだ、確信は持てませんが。

③現状の候補地のひとつとして妥当な選択だと思いますが、検討項目が出揃っていないと思います。

④環境負荷が少ない事を前提に、周辺市町と連携して合理性・持続可能性を検討した中間処理焼却炉。

⑤一定の人の意見が反映されてしまう可能性は否定できないが、現状では妥当なシステム

⑥懸念については、過去の市議会で繰り返し質問がなされているが、今後も注視していく必要はあり。

⑦三島市のファシリティマネジメントは、コロナ禍のもとでの検討は、なされているがロシアの侵攻以後の再検討が含まれていない点があると思っています。

【秋山　恭亮議員】

①「行政のチェック機能」が薄れているとは感じません。問題意識をもって市議会議員を志す年代層も増えています。問題意識を持って議員活動に当たれば、今後「チェック機能」も働くと考える。

②予算の流れをしっかりと見ることができると、どのような政策や事業を重要視しているかがわかってきます。

③今年度内に現在の北田町に建てるか、南校跡地に建てるか決定されます。事業費、建設後の利便性、安全性、歴史的観点、市民の意思など多方面から評価し、判断してくことです。議会としても、私も議員とし情報を精査し、判断していきます。

④「ごみ処理施設の広域化・集約化」持続可能な焼却炉が望ましい。広域化することにより、関係市町による初期費用・維持費用の負担割もできるし、より多くの国・県の助成金が望める。また、高機能化できればダイオキシンの発生も抑えられる。将来人口減少に対応するためにもゴミ処理施設の集約化は必要だ。

⑤多様化・高度化する市民ニーズや社会情勢を鑑みて、専門家も交えた審議会を設置し、幅広い課題について、調査・答申を行うことは必要なことだと考えます。また、経験論や感情論に頼らない、科学的なエビデンスをもって方向性を示すことは大事なことです。しかし、100%その答申に従うのではなく、地域の実情や地域の市民ニーズをしっかりと加味し、課題を解決していくべきだと考えます。

⑥まずは、できるだけ正確な建設費の算出をし、どれだけ予算をオーバーするかの試算をしなければなりません。そのうえで、デベロッパーにも負担を求め（竣工後のマンション等に価格転嫁することになったとしても）、国の交付金により三島市の負担を減らすことが必要です。可能な限り、市税・市債等の負担を抑え、当初計画から大幅にオーバーするようなら、見直し検討も必要だと考えます。この点に関しては、民間企業の経済観のような価値観が必要かと存じます。

⑦適切なファシリティマネジメントが必要です。上下水道、道路や橋については補修をしていくことが必須です。しかし建物等の公共施設については令和11年までに1737㎡減、令和31年までに52000㎡減が必要という試算が出ています。各地域のニーズもありますが、費用対効果を鑑み、推し進めていくしかないと考えます。また先述しましたが、焼却炉については広域化を図る、学校の統廃合を計画的に行う、というような対応も必要になると考えます。

【横山　雅人議員】

①しっかりチェックしていきたいと考えます。

②市民の幸せ

③市の所有地で好立地であり検討しているがハザードマップで浸水エリア内のため考慮が必要と考えます。

④分別によるゴミの量に適応した施設。近隣市町の集約化も。

⑤そのチェックは必要

⑥懸念していますが、当局の回答をもらっていないので今後も注視していきます。

⑦市のファシリティマネジメントの考え方に沿って考えます。建物の耐久性等も考え対応が必要と考えます。

【富田　康子議員】

①議員一人一人の考え方にもよりますが、専門性を持った議員が多くなること、その専門性に責任をもってチェック機能を正常に機能させるとより良いチェックになるとおもいます。

②市民の方々との対話その声を伝えること

③三島の歴史を考えて、三島にとってどこが一番良いのかを市民と一緒に提案

④亜臨界処理方法

⑤有権者の位置付けを明確にしてほしい。年代別や性別や地域に対しての方々の公平性をもつ市民の意見を吸い上げる方法も良いのかも。

⑥今季の当選議員がどうこういえる問題ではないと考えます。決まった事に対してどうこう言ったり思ったりすることは、控えさせていただきます。

⑦優先順位をつけ、どこから一番手をいれるのが重要なのかを明確にする。

注　紙面の都合で一部省略しました。

〈浅〉

新人本間議員の注目発言

新人議員の中で、6月議会の一番の注目は「維新と無所属の会」の本間議員の発言だった。

本間議員は三島市長伏出身で29歳。伊豆中央高校、東海大学政経学部卒、三島信用金庫、元国民民主党山崎真之介参院議員の秘書を経験し、今回、三島市議に挑戦した。

4月の選挙では1497票を獲得し、22人中、13位で当選。6月議会初登壇の質問は「三島駅南口東街区再開発事業について」だった。

東街区再開発問題は昨年の市長選以降、豊岡現市長の四期目当選と来年度着工との状況の中で、既定方針として進められている。今更、問題にしても、事業は後戻り出来ず、反対論や見直し論がしぼみ、議会状況は市長翼賛体制が拡大する中で、本間議員の質問はある意味注目すべき内容であった。

冒頭「私は決して三島駅周辺整備に反対しているわけではありません。しかしながら、今現在の計画は極めて不透明であり、かつ三島市民の財産が適正に評価されていないと感じており、三島市の財産を守る立場として本事業を徹底的に問いただしたい。その思いでこの度質問をさせていただきます。」との事で新人議員としてはかなり大胆な切り出しだった。

また「世界情勢により、建材費高騰や電気料金値上げなど、多くの社会課題が刻々と変化し続けております。さらに人口減少は社会基盤そのものを根底から覆す時代です。そのような中で、現状の計画はどうでしょうか。マンションや商店を羅列するような従来の再開発と何ら変わりのないもののように感じます。」と続け、まさに正鵠を得た内容であった。

更に続けて「三島にしかないもの、三島にしかできないことを完成させること、これこそ生き残る街となり、近隣市町まで巻き込むことのできる力のある街へとつながるのだと思っております。

にぎわいという非常に曖昧な表現のもと、中身が明らかにされないまま、市民、県民、国民の税金が補助金として本事業に今も投入され続けています」と続けた。

新人議員の中で、これほど明確に市長に対峙する議員は見られない。

慌てた市長は発言終了後、急に立ち上がり「誤解があるのではないか」との注釈をいれた。

〈傍聴者〉

予算案採決で居眠り

自民党籍で改革三島の会派に所属する某女性議員が、2月議会予算案採決時に「寝ていて、会派長に突かれて起こされた」ことがあった。

議会は3月15日のことだった。

気が付いた時は遅かった。居眠りして、本来、会派からすれば賛成のところ「反対票にカウント」されてしまったのだ。しかも、予算案は重要法案で、採決は挙手ではなく起立が求められる。

その時、反対を投じたのは共産党の2議員と佐藤議員の3票だけと予想されていたが、思わぬ一票が加わった。

でも「間違わないで、賛成の起立のはずが、眠ってて起立ができなかっただけだから?」

昨年、同じ会派で会派拘束に反し「東街区再開発問題」で反対した古長谷議員はやむなく会派を離脱していった。

居眠り議員を起こす会派長

賛成だと思っていた議員に大事な予算を反対され、当局もカンカンだったろう。しかもこんなだらしない状況が「議会放映」で晒され、議長もメンツが丸潰れ。三島市議会の質そのものが問われる醜態である。

この「居眠り採決の話」は単なる笑い話ではない。議員の存在意義をかけた予算案の採決の場面なのだ。しかし、この件に付いて当時の議長から叱責を受けたとの話は聞いていない。

お仲間なら何でも許されるのか?これは劣化する議会の象徴的出来事である。

〈議会ウォッチャー〉

沼津駅北口にあった国鉄沼津機関区（その15）

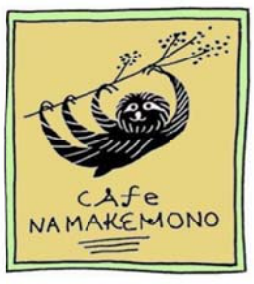
地域人民闘争と沼津での闘い

沼津機関区の所属する国労国府津支部の労働基準法、車両整備規程、運転法規順守の独自闘争は「地域人民闘争」の一環として取り組まれた。沼津機関区分会は、避雷器のついていない電気機関車への乗務を拒否、また走行キロの法定検査限度を越えている機関車の乗務も拒否した。この乗務拒否により4月19日5本、20日9本、21日5本の計19本の列車が運休した。また、この時期、新製され沼津機関区に配属されたEF58型電気機関車は、材質不良、故障が続出した。分会は、検修関係者と共に何回も話し合い200か所に及ぶ改造要求を出し、解決されないため配属済みの10両全ての機関車に乗務拒否をし一か月にわたった。分会役員は、茨城県の日立、神戸の三菱、大阪の汽車会社におもむき、製造にあたった技術者や労働者と意見交換し、ついに国鉄本社車両設計事務所の谷山康夫技師に面談し改造を約束させた。この改造されて一新されたEF58型電機機関車が流線型でその後特急などを牽引した花形機関車となった。この時期、1948年の春、国労の国府津支部などでは地域闘争としての順法闘争が取り組まれていたが7月31日「政令201」が発せられ、公務員の争議行為は禁止された。これらに抗議する闘いが全国的に強まっていた。

北海道の狩勝トンネルでの窒息事故に抗議して分会長の柚原秀男が抗議自殺したことを契機に1948年8月6日正午から一斉職場離脱し全国オルグに出発した。自分達の集団を「柚原民族独立行動隊」と称した。この動きは全国に波及し札幌79名を始め全国で489名が全国オルグに散っていった。この内、職場復帰した者は478名。逮捕状が出たものは106名、懲戒免職978名となったがそのほとんどは20歳前後の若者だった。8月末には、沼津、富士、静岡でも行動を共にしようと「柚原民族独立行動隊」の一人であった小賀坂清治は、このオルグの中で清水に留まり、そこに住み着き、後に日本共産党静岡県委員長になっている。日本共産党の伊藤律は「革命の嵐が津軽海峡渡って本州に来つつある」と全国に決起を訴えた。その時、沼津に紺野与次郎と保坂浩明が直接来て、国鉄党員を駅前の喫茶店に集め「いますぐ大阪に飛べ、どこどこに行け」と命令したが大喧嘩になった。岩瀬敏彦らは、二人の中央幹部の命令を拒否した。すでに沼津地域では、地域人民闘争の一環として位置づけられた避雷器闘争や労基法順守闘争で十分な実績を積んだ国労沼津機関区分会の指導者たちの行動に対し岩瀬敏彦等16名の日本共産党員たちは信頼しきっていた。党中央幹部の直接指導を誤りと拒否できた度胸と力量がそなわっていた。

〈山梨・国労OB〉（続く）

沼津アルプス産
生はちみつ
100g、200g、300g、600g、1Kgのびん詰めを用意しています
みつばちひろば
【取扱店】
市民ひろば
ジンタの天然マーケット（毎日曜日 11時~13時）
よし多 蕎麦（清水町徳倉）
渡辺商店 味噌（大宮町）
和風カフェねこや（沼津みなと）
カフェ ナマケモノ（大仁）
ともり歯科（三島市中）
連絡先:080-3061-1561



Café NAMAKEMONO
Tel 055-876-2796
〒410-2322 静岡県伊豆の国市吉田126
営業時間 Open12:00～Close18:00
定休日　月曜日

裁判費用の
ご支援を
お願いします。
原告団事務局
までご連絡ください
09018328878　浅羽
QRコードからHPに移動します
写真をよくみてください！沼津市は清水町の中学校からこんなに近いところで一般ごみの焼却処理を行っています。さらにここから北のエリアに新しい焼却炉の建設計画を進めています。中学校に近く地元住民も反対するごみ焼却炉新設に反対する裁判費用のご支援をお願いします。新設を止めるための裁判です！！！